【全体研修会】

石川支援学校　研修部

研究テーマ

「知的障がいのある児童生徒における各教科や各教科等を合わせた指導の充実を目指して－新学習指導要領を踏まえ、自立と社会参加に向けて児童生徒が何を学び何が身に付いたのかが明確になる授業づくり－（２年次)」

令和３年１月２６日（火)、第２回全体研修会を行いました。今年度の学校研究に係る取り組みの実際や成果と課題について職員全員で共通理解を図るとともに、次年度の学校研究の方向性について確認をしました。

◇今年度の重点目標

個別の指導計画や年間指導計画と授業とを関連させながら新学習指導要領に基づいた系統性と根拠のある授業を展開することで、**児童生徒が何を学び何が身に付いたのかがわかる授業づくりを行う**

◇成果と課題

①個別の指導計画を活用した実態把握について

◎自立活動の流れ図等を活用してグループで実態把握をすることができた。

▲授業におけるすべての生徒について、研修時間内にグループで実態把握をすることは時間も足りなく難しい。

②学習指導要領に基づいた目標設定と指導内容の選定について

◎学習指導要領を見ながら複数の目で検討することができた。

◎学習指導要領に基づき、段階を踏みながら目標設定をすることができた。

▲児童生徒の実態と学習指導要領に基づいた目標設定、指導内容の選定について継続した研究が必要である。

③年間指導計画と授業との関連性の検証について

◎１年間の授業の流れや学習内容を理解したり、授業の位置付けを確認したりすることができた。

▲児童生徒の学びの状況（実態）を踏まえた計画を立てるが、授業を進めていく中で実態や状況との相違が生じた際には修正することが必要である。

④主体的・対話的で深い学びを促すための手立てについて

◎難しさもあるが、研修を通して意見を交換したり学習指導要領を読み合わせたりすることで、少しずつ３つの視点で考えられるようになってきた。

▲主体的・対話的で深い学びを促す手立ての設定の仕方についてはまだ不十分なところがある。

◇来年度の学校研究

＜研究テーマ＞

研究を継続し、同じテーマで３年次とする。

＜研究内容＞

新学習指導要領を踏まえた PDCA サイクルの授業づくりの完成

①３観点による評価規準の設定

②今年度まで取り組んできた授業づくりの考え方の周知

⇒児童生徒が自分の成長を実感し、得た知識や技能を実際の生活の中で生かしていけるようにする。

児童生徒の生活の質を向上させ、自立と社会参加へつなげる。